



第3弾となる今回の宝塚通信では、大洲市出身のタカラジェンヌ、彩風咲奈さん（雪組）が所属している宝塚歌劇団の歴史や、組織などについてお伝えします。

純粋な思いから始まった物語

阪急電鉄の前身である箕面有馬電気軌道株式会社の専務であった小林一三いちぞう氏は、「家族全員で楽しめる娯楽施設を」との思いから、1913年に宝塚唱歌隊を創設し、現在の宝塚歌劇団の基礎を形成しました。

小林氏が残した言葉「清く、正しく、美しく」は、現在も宝塚歌劇団の教訓として受け継がれています。この理念は舞台に立つ出演者だけではなく、作品の制作でも大切にされていて、全ての来場者に楽しいひとときを提供し、最高の作品を演出する上では欠かすことのできないものです。

宝塚に携わる者たち

現在、宝塚歌劇団は団員（タカラジェンヌ）や脚本家、音楽家、舞台美術デザイナーなど500人以上で構成されています。また、道具や衣装製作、舞台運営に携わるスタッフを含めると、総勢

900人以上の協力によって公演が行われています。

夢の場所である宝塚歌劇の舞台に立つためには、必ず宝塚音楽学校を卒業する必要があります。毎年、全国各地から数千人もの入学希望者が集まり、狭き門を目指して競い合います。愛媛県内からも、毎年入学希望者の応募があり、その人気の高さを計り知ることができます。

宝塚音楽学校入学後は、演劇・音楽・ダンスなど2年間かけて勉強し、その後、宝塚歌劇団を目指すこととなります。

日本から世界へ

国内では、兵庫県の「宝塚大劇場」、東京都の「東京宝塚劇場」を主な公演会場として、その他の劇場も含め、年間で約1500回の公演を行っています。

宝塚歌劇団の人気は国内にとどまらず、1938年の海外初公演を機に活動の場を海外へ広げ、そのファンを増やしています。

～宝塚歌劇の歩み～

| | | | |
|-------|----------------|-------|----------------------------|
| 1907年 | 箕面有馬電気軌道株式会社設立 | 1938年 | 初の海外公演(ドイツ・ポーランド・イタリア) |
| 1913年 | 宝塚唱歌隊として発足 | 1967年 | 初のブロードウェイ・ミュージカル『オクラホマ!』上演 |
| 1914年 | 宝塚少女歌劇第1回公演 | 1974年 | 『ベルサイユのばら』初演 |
| 1919年 | 宝塚音楽歌劇学校設立 | 1993年 | (新)宝塚大劇場開場 |
| 1924年 | (旧)宝塚大劇場開場 | 2001年 | (新)東京宝塚劇場開場 |
| 1934年 | (旧)東京宝塚劇場開場 | 2004年 | 宝塚歌劇90周年 |

個性派ぞろいの出演者たち

宝塚歌劇団は、花組・月組・雪組・星組・宙組と分かれていて、最初に結成されたのが花組と月組（1921年）、そして最も新しく結成されたのが宙組（1998年）です。

5つの組には、それぞれ80人前後の出演者が在籍しています。各組には男役娘役の主演スターが在りし、2人を中心とした演技をお客さんに披露します。雪組では現在、壮一帆さんがトップスターを、愛加あゆさんがトップ娘役を務められています。

また、5組のほかに専科というどの組にも属さず、歌やダンスなど特定分野に秀でたスペシャリストが集まる集団も存在します。各組の公演へ必要に応じて特別出演するなど、作品を引き締め、より奥深いものにしていく役割を担っています。

宝塚歌劇団を退団した多くの女優は、公演で培った経験を生かし、現在でも、日本の映画・舞台・テレビなどの各分野で活躍を続けています。

夢を、そして感動を

宝塚歌劇は、すべて男性だけで演じる歌舞伎や能と対比して論じられることがあります。歌舞伎や能と異なり、日本の伝統劇の形式・精密さと、西洋のミュージカルの躍動感やエネルギーを融合させた夢のような世界が、宝塚歌劇の特色であり人を惹きつける最大の魅力です。

女性ならではの華やかでファンタジックなこの世界観は、日本のファンだけでなく、世界中の人たちに感動を与え、さらなる輝きを放つていくはずですよ。

世界でも数少ない、出演者が女性だけで構成された劇団・宝塚歌劇団。これほど多くの人に愛されてきた背景には、常に新境地を切り開き、新しいチャレンジを続けてきた歴史があります。

みなさんもぜひ一度、劇場で豪華絢爛なステージと出演者たちの輝き、そして感動を味わってください。

きっとそこには、「すごい」「見た見たい」と思えるような世界が待っています。

彩風咲奈さんからのメッセージ

大洲のみなさん、お元気ですか。宝塚歌劇団雪組の彩風咲奈です。

新年度が始まり、新たな生活をスタートさせている人も多いのではないのでしょうか。

今年は私にとって、新人公演の舞台に立てる最後の年になります。初めて舞台に立ったあの日から今まで、本当にたくさんのお話を学ばせていただき、充実した日々を送ることができています。思い出ある新人公演の舞台に立てなくなることは、もちろん寂しいことですが、全国各地から見に来てくださるお客様の笑顔のためにも、残り全ての公演を全力で頑張りたいと思います。

今後、一人でも多くの方に劇場へ足を運んでいただき、夢や感動を与えられる公演を披露できるよう、一生懸命稽古に励んでいきます。

みなさんの温かい応援をよろしくお願いします。



大洲市出身のタカラジェンヌ

雪組 あやかぜ 彩風 さきな 咲奈 さん

がんばる大洲企業



弊店は平成12年に創業し、現在は4人の従業員で、主力商品である「じゃこてん」「野菜入りじゃこてん」の販売を行っています。商品は本店で生産し、それをたいき産直市愛たい菜や市外の施設など3箇所販売します。良質な商品を食べていただくことを前提に、販路拡大を図るよりも現状に合った販売を心がけています。

作業工程で最も気を付けることは、すり身の材料となる魚の鮮度管理と、すり身を寝かす時間の調整です。商品の良し悪しに大きく関わるので、素材の良さをそのまま生かせるように、弊社独自の徹底した管理を行っています。

じゃこてんや下坂

素材の良さをそのままお客様へ届けたい



材料の管理や揚げる際の火の通し加減など、どの作業も気が抜けません。が、やはりお客様からの「おいしい」が心の支えになっています。弊店の商品を食べ、笑顔になる姿を見ると、販売業のやりがいを実感することができます。

また、地域イベントへ積極的に参加し、たくさんのお客様と触れ合うことで、楽しく仕事を続けることができています。

今後も、より多くの笑顔を増やすために頑張っていきます。安全安心で、味・食感ともに自信のある弊店の商品を、まずは一度、食べに来てください。

▽所在地 大洲市長浜町櫛生
乙2351-1
▽電話 ⑤3 0066

文化財

天神社のアオネカズラ
大洲市指定天然記念物
天神社所有

アオネカズラは、冬緑性（夏に落葉し、秋から冬にかけて葉が開く性質）のシダ植物で、樹木の幹や岩の上などに繁殖します。青緑色の根茎が岩の表面などを長く這う様子から、和名で表示すると「青根葛」となります。

根茎は径4～5mmとやや肉厚で、枝分かれしてまばらに葉をつけます。淡緑色で少し厚手の葉は長さ20cm程になり、羽状に深く裂けて両面がピロード状の毛で覆われます。

本種は関東以西の本州、九州、四国に分布していて、大洲市内でも所々に分布が見られますが、天神社（河辺町）付近に最も多く群生している貴重な植物です。

（昭和56年3月10日指定）



野鳥

アジサシ（鱈刺）
チドリ目カモメ科
大きさ35cm



春に南半球から北半球の繁殖地に向かう途中、日本にやって来るカモメの仲間です。その中でもアジサシ類は長距離を移動するため、体つきがスマートで比較的小さい分類に入ります。群で行動していますが、嵐の後などは、単独で海から離れた内陸部の河川でも観察されることがあります。獲物の小魚（アジ）を見つけると、突き刺すようにダイビングして捕らえることから、アジサシと名前が付いたようです。

一昔前の漁師は、アジサシの到来で春の訪れを知り、アジサシが去っていく頃、夏の終わりを感じていたようです。しかし、最近は個体数も減り、そのような風物詩は遠い夢物語になりそうです。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④



4月20日(土)

龍馬の見た風景を感じて

～第3回龍馬脱藩の川下り&ウォーキング～

文久2年(1862)、坂本^{りょうま}龍馬と沢村^{そうのじょう}惣之丞が脱藩の際に、長浜へ立ち寄り一泊したという史実を疑似体験してみようと、第3回龍馬脱藩の川下り&ウォーキングが開催されました。

当日は天候が危ぶまれましたが、川下りに20人、ウォーキングに110人が参加しました。

参加者たちは、幕末の偉人が残した足跡に思いをはせながら、脱藩の道を楽しんでいました。



3月30日(土)

河辺の新たな春の催し

～河辺ふるさと公園さくら祭り～

「河辺地区にも春の行事を」との声を受け、ふるさと公園管理者のゆうとぴあ河辺が中心となり、河辺ふるさと公園さくら祭りを開催しました。

会場では、猪鍋の無料配布や地元特産品、お花見弁当などが用意されたほか、春のフォト撮影会や大正琴の演奏などもあり、会場は終始盛り上がりました。

当日は気持ちの良い陽気で、桜も満開になり、お花見にも適した最高の一日となりました。



5月3日(金)

大空に泳ぐ鯉のぼりのように

～大川鯉のぼり川渡し～

地域の宝である子どもたちの健やかな成長と、地域の活性化を願って、「第6回大川鯉のぼり祭」が開催されました。

会場では、親子稚アユ放流体験や肱ガーラBARIバンドによる琉球民謡・島唄演奏などが行われ、家族連れなど多くの人でにぎわいました。

2本のワイヤーに設置された約200匹の鯉のぼりは、爽やかな風が吹く中、気持ち良さそうに泳いでいました。



4月16日(火)

元気に育ってね

～稚アユ放流～

肱川での豊漁とうかいの成功を目的に、稚アユの放流が肱川如法寺河原で行われました。

この日は雲一つない青空で、約5万尾(およそ100キログラム)の稚アユ放流のため、肱南保育所から25人の園児が招かれました。園児たちは、「大きく育ってね」と声をかけながら、バケツに入れてもらった稚アユを、優しく川に放していました。

今年の稚アユは例年より大きく、6月の漁解禁頃になると20センチ前後に成長するそうです。